

## シグマ委員会 核データ専門部会 GNASH改善 ad boc 委員会第1回会合議事録

日 時 昭和59年5月16日(水) 13時30分～17時  
場 所 日本原子力研究所東海研究所研2, 221号室  
出席者 飯島, 川合(NAIG), 菊池, 浅見, 杉, 柴田, 中川(原研)

### 配布資料

- 1) GNASHのFORTRANソースリスト
- 2) GNASHの入力データ説明書

### 議 事

1. 今年の3月にYoungから入手したGNASHの新版のFORTRANソースリストと入力データの説明書が配布された。浅見委員が新しい入力データフォーマットについて説明を行った。
2. このGNASHの新版を今後使えるようにするために、以下の事が決定された。
  - (1) 新しいGNASHをNAIGでは7月末までにACOS用に変換する。一方原研でも7月からFACOM用に変換する作業を始め、両方でテストランを行う。
  - (2) 新しいGNASHと古いGNASHの比較を川合委員が行い、改良点をreviewする。
  - (3) level densityのoptionやphoton profile functionなどはなるべくCASTHYと同じにする。この点はNAIGで検討する。
  - (4) より簡単にGNASHを使えるようにするため、中川委員がGNASHのためのJOBSETTERを作ることを検討する。その際、できれば、level schemeやbranching ratioの情報はENSDFから取り出すことを考える。もしbranching ratioが未定の場合はCASTHYの中で行っている方法でbranching ratioを推定する。  
また transmission coefficientを作成するのに使うELIESE-3GのJobもJOBSETTERで作成できるようにする。
- (5) GNASHのoutputをENDF/Bフォーマットに変換するプログラムについては菊池, 中川両委員が検討する。

### 3. 次 回

プログラムの変換が終る7月末あるいは8月始めに東海で会合をひらく。